

習志野市新 ALT を紹介します

ジブリも日本語も大好きです！

マリーノ・マデライン・ヴィライ (Ms. Marino Madeleine Vilai) さん

今年の1月にALT（外国語指導助手）として習志野に赴任。最初は習志野市立第一中学校、4月からは第六中学校に勤務しています。

出身はアメリカ・アラバマ州。アラバマ大学バーミングハム校で、インターナショナルスタディと日本語を専攻しました。日本語に興味を持ったのは、

「実は叔母が日本人なんです。神奈川県出身で叔父と結婚したんです。そして（その子供の）イトコがよく日本のお菓子やジブリのDVDを持って家に遊びに来ていたので、自然と日本に興味を持つようになりました。もともと言葉を学ぶのが好きだったんです。漢字はとても美しいと思いますし、ライティングのシステムも英語と大変違うので面白いと思いました」。

さらにお祖母さんが中国人。「だから私は四分の一中国なんです（笑）」。黒みがかった長い髪と大きな瞳。どことなくオリエントの香りのするのも納得です。

高校ではサッカー、大学ではバトミントン

にうちこんだスポーツウーマン。趣味は散歩、読書、映画を見ること。もちろんジブリ作品ははずせません。

「ジブリはどれも素晴らしいですが、ベストは何といても『千と千尋の神隠し』。2位は『もののけ姫』だと思います」と、熱っぽく語ります。ジブリファンのメッカともいえる三鷹の森ジブリ美術館はもちろん、最近名古屋

屋に誕生したジブリパークもすでに訪ねたそう。「ジブリパークはこれからまだ新しいエリアができるようなので、そうなったらまた行かないと！」と、笑います。

日本の中学生の印象は、「行儀がよいですね。掃除なども自分達で率先してやり、自立していますね」とのこと。

将来の抱負は、「アメリカで子供たちに教えること。教えることも、子供達も、両方好きなので」。そう目を輝かせます。う～ん、私たちとしてはずっと日本で教えていただきたいくらいすてきな先生です。

インタビュー：佐藤洋子（広報部会）

